



# カリエロ11 CAGLIERO11



## サレジオ会宣教ニュース

204 2025年 12月

150 感再 謝考 再発 進

サレジオ会宣教部門による  
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

再発進



### 友人の皆さん、

困難な地域で生活し奉仕する兄弟たちの勇気と信仰を目の当たりにする恵みを、私はドン・ボスコのサレジオ会員としていただけてきました。最近、ミャンマーと聖地を訪問しました。暴力と分断に傷ついた、二つの地域です。ミャンマーでも、聖地でも、不安や不確かさにもかかわらず、喜びをもって福音を生き、若者に教育、希望、平和を差し出しつづけるサレジオ会員に出会いました。

会員たちの勇気と信仰、そのあかさに深く感動したと言わざるをえません。最も深い闇の時も、神はその子らのためにはからうことをやめないのだと、私は思い起こさせられました。私たちはいつも前向きでいなければなりません。神はあらゆる試練から良いものを引き出すことができると、信頼しながら。

「神は戦争を望まれません。神は平和を望まれます。」教皇レオはこのように述べ、平和のために祈るよう私たちに促しています。平和が私たちの共同体に、紛争に苦しむすべての人の心に住まうよう、共に祈りましょう。私たちサレジオ会員の存在が、希望の小さな炎でありつづけますように、愛が憎しみより強く、イエスの平和が今も世界を変容させることができると、示すことができますように。

祈りと感謝を込めて。

● 財務顧問

ガブリエル・スタヴォヴィー神父, SDB

## 平和を願うなら、 平和のために教育しよう

21世紀にあつて、世界で**100以上の武力紛争が続いている**ことは、信じがたいことのように思われます。そのうち11の紛争は本格的な戦争であり、何千人もの死者、何百万人もの避難民を生み出しています。展望は暗いものです。なぜなら、最も苦しむのは常に子ども、若者だからです。私はリベリアやシエラレオネなどの国で、宣教師として、自分の目でそれを見てきました。子どもたちは、前線で闘うために強制的に徴兵されるのです。

教皇フランシスコは、はっきりと述べました。「すべての戦争は敗北です。」最終的に勝者はいません、皆が敗者です。なぜなら人々の心が傷つき、魂の傷は体の傷よりも癒えるのに長くかかるからです。教皇レオ十三世はこのことを確証しています：「平和によって失われるものは何もありません；戦争によって、すべてが失われます。」そして、武器の音を鎮め、**正義と人間の尊厳の尊重に基づく平和**を築くことのできる唯一の道として、対話とゆるしへ私たちを招きました。

サレジオ会員であり、宣教する家族である私たちにとり、平和はただ理念や権利にとどまりません：生き方であり、教育のプロセスです。すべての家庭、共同体、遊び場、実習室、教室は、真の平和の学び場でなければなりません。子どもや若者が、共に暮らし、対話し、ゆるし、違いを尊重することを学ぶ場所です。**平和は教えることができると、ドン・ボスコは確信していました**；平和は、言葉よりも行いによって、慈愛、信頼、耳を傾けることに満ちた雰囲気の中で、家庭的精神を生きることによって、よりよく教えられます。したがって、平和を願うなら、平和のために教育しましょう！なぜなら平和は、押しつけることはできず、一人ひとりの人、さまざまな国民、特に若者を教育することによって築き上げるものだからです。ドン・ボスコは常に言っていました、教育は心のことであると。そして、平和もそうなのです！

● 宣教顧問 ホルヘ=マリオ・クリサフツリ神父, SDB

### 振り返りと 分かち合いのために

● 世界の平和のために、個人として、また共同体として、どうすれば貢献できるだろうか？



### キリスト教徒が影響を受けている主な戦闘地域

- フ** **スーダン**：内戦によって770万人以上が避難し、世界最大の難民危機となっている。イスラム過激派が百以上の教会を破壊、キリスト教徒を拉致、殺害している。
- オ** **ミャンマー**：カチン地方のキリスト教徒は、特に2021年の軍によるクーデター後、活動家たちが「ゆるやかな虐殺」と呼ぶ殺戮の犠牲となっている。
- ラ** **ナイジェリア**：ナイジェリアはキリスト教徒にとって最も命の危険にさらされる国でありつづけている。2022年から2024年にかけて、確認された死者は9,814人となっている。
- ム** **ガザ**：イスラエルとハマスの戦争が始まってから、人々の家屋のほとんどが破壊され、ガザのキリスト者共同体は壊滅の危機に瀕している。

# 心の武装解除 平和を築くために

タティ神父様、今月私たちは、戦争の起きている地域に暮らすサレジオ会共同体のために特別に祈っています。戦争は人の心の中で始まり、人間関係に影響を与えます。私たちの共同体においてさえそうです。共同体の中の対立は、ふつうのことだと思いますか？

カリエロ11、12月号のテーマとして平和を選んでくれて、ありがとうございます。この暗い時代、私たちは福音書のやもめのように根気強く祈るよう、差し迫った呼びかけを受けています。私たちの兄弟姉妹 - 同じ人間である人々を傷つけ、殺す戦争が止むように。世界各地の紛争や戦争のただ中で、自分たちの世話にゆだねられた若者や人々と共に勇敢にとどまり続けている兄弟会員と、連帯し、一致しましょう。

対立は、人間の経験につきもので、私たちの共同体も例外ではありません。日々、生活や仕事、使命を共にする中で生じます。会員の間で、対立は、異なる意見といったささいなことから始まるかもしれません。そのような相違に、大人らしい態度、謙遜な姿勢で対応しなければ、しだいに根深い誤解、対立、分断に発展する可能性があります。

神父様はインド・ハイデラバード管区INHの管区長や、コッレ・ドン・ボスコを含むいくつかの共同体のリーダーを務めて来られました。会員の間での対立の解決、和解という観点から、務められた役割を通してどのような経験を得ましたか？

会員の間で、また共同体の中で、平和がいかにもろいものでありうるか経験しました。意見の相違、誤解、心の傷などが、人の心を隔てる壁をいとも簡単に作り上げてしまうのです。時折、お互いにまともに目を合わせることもできない会員の間で、自分が立たされているようなこともありました。平和へと最も変容させる道は、耳を傾けることだと私は学びました。深く、忍耐強く、自己防衛のために身構えることなく、耳を傾けることです。真に耳を傾けるとき、壁は崩れ、橋が築かれます。和解と一致を進めるために、祈りが効果的な手段であることを発見しました。緊張の時、その状況といやしを必要とする会員たちを主にゆだねました。言葉や行動が無力なとき、主の恵みが働くように。人の心や人間関係に理解、平和をもたらす、新たに作る、静かながらも変容させる聖霊の力を、何度も目の当たりにしました。私たちが自分の力で何とかしようとするのをやめ、心を柔らかくしてくださるよう主にゆだねるとき、聖霊は最も力強く働かれます。

平和へのもう一つの不可欠な道は、ゆるしです。傷ついたにもかかわらず無条件にゆるそうとする会員に、私は出会ってきました。彼らは、私たちの隣にいる聖人です。自分の落ち度認め、ゆるしを願うことは、弱さのしるしではなく、真の力と謙遜の表れです。ガンジーが私たちに思い起こさせるように、勇気ある者だけが真にゆるすことができるのです。優越を主張する人がいなければ、対話が可能になり、和解と平和へ向かうのです。

世界の平和、人の心の平和のために祈る私たちに、勧めの言葉はありますか？

平和を祈るとき、私たちはまず神に、自分の内の嵐をしずめ、心を武装解除してくださるよう願わなくてはなりません。日々の生活の中でどのように話し、耳を傾け、ゆるし、人々と出会おうとするか、平和はそこから始まります。この不安な時代、世界が戦争、暴力、分断の重荷にあえいでいるとき、私たちの共同体は、まことの平和のオアシスとなるように呼ばれています。



タティレディ・ヴィジャヤ・バスカール神父, SDB

ハイデラバード管区出身。広報、青少年司牧の管区担当者、副管区長などさまざまなリーダーシップを通して管区に奉仕した後、管区長(2016 - 2022)を務める。その後、コッレ・ドン・ボスコの院長(2022 - 2025)に任命される。2025年4月、ドン・ボスコの第11代後継者ファビオ・アッタールド神父によって、総長秘書に任命される。

哲学、コミュニケーションの専門資格をもち、哲学を教え、危険にさらされた青年のために働いてきた。



宗教 統計と予測 - 1800 - 2025

## 12月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

### 平和の再発進

サレジオ会の意向

サレジオ会の共同体のうちに、戦闘地域に暮らす人々の心に、平和が住まうよう祈ります。

教皇レオの祈りの意向 > 紛争地域に暮らすキリスト者のために



サレジオ会の  
管区長と院長